



Workload Optimization Manager 3.2.1 REST API の変更点

2021 年 12 月 17 日

REST API への変更点

■ 改善点：

修正バージョン：8.3.1

Dynatrace では、Dynatrace ターゲットを介して VM メトリックの収集を有効化または無効化できるようになりました。

アプリケーションを管理する場合、分析では VM メトリックが考慮されます。Dynatrace 環境では、Workload Optimization Manager は、Dynatrace ターゲットおよび基礎となる VM から VM データを検出できます。両方のソースから VM データを収集する場合、分析には Dynatrace データが使用されます。

ほとんどの環境では、Workload Optimization Manager が VM 自体から直接収集する VM データを使用するのが最適です。データはより豊富かつ正確になりますが、Dynatrace を介してこのデータを検出すると、十分なパフォーマンスが得られない可能性があります。

分析で使用される VM メトリックデータのソースを制御可能にするために、このリリースでは、Dynatrace ターゲットの設定時に [仮想マシンメトリックの収集 (Collect Virtual Machine Metrics)] の設定が導入されています。デフォルトでは、この設定は [オフ (Off)] です。オフの場合、Workload Optimization Manager は Dynatrace ターゲットを介して VM メトリックを収集せず、分析には VM 自体から収集されたデータが使用されます。

注：

ターゲットに対してこの設定を [On] にすると、影響を受ける VM の [Aggressiveness] 設定で設定するパーセンタイルが分析で使用されません。

API を介して Dynatrace を設定するときに、オプションの設定を使用できるようになりました。

```
{
  "displayName": "Collect Virtual Machine Metrics",
  "name": "collectVmMetrics",
  "value": "false",
```

```

    "defaultValue": "false",
    "isMandatory": false,
    "isSecret": false,
    "isMultiline": false,
    "isTargetDisplayName": false,
    "valueType": "BOOLEAN",
    "description": "Override Hypervisor or Cloud Provider Virtual Machine
metrics with data from the target",
    "verificationRegex": "(true|false)"
  }
}

```

■ 改善点：

修正バージョン：8.3.1

このリリースには、**[無駄なファイル (Wasted File)]** ポリシーの **[無駄なファイルの最小サイズ (Minimum Wasted Files Size)]** の設定が含まれています。

無駄なファイルを検出すると、Workload Optimization Manager は、特定のストレージとそのストレージ上の無駄なファイルのリストを識別します。ボリュームに多数のファイルがあるような状況では、ボリュームを記述するデータが大きすぎて、ターゲットから Workload Optimization Manager に転送できないことがあります。その場合、影響を受けるストレージは分析に含めることができず、ログに文字列 (* はワイルドカード) を含むエラーが投稿される可能性があります。

```
BroadcastStage.*Entity.*failed to be broadcast because it's too large
```

そのストレージのデータペイロードを減らすために、無駄なストレージブラウジングを指示して、最小サイズのファイルをスキップできます。その後、データのリストには大きなファイルのみが含まれるため、全体のペイロードを削減できます。デフォルトの最小値は 1 MB です。

この問題が引き続き発生する場合は、無駄なファイルのサイズを増やしてリストに追加できます。これで、ボリューム上の無駄なファイルの数が減るはずですが、**[無駄なファイルの最小サイズ (Minimum Wasted Files Size)]** の設定を調整するには、次の手順を実行します。

1. ストレージポリシーを設定します。

[設定 (Settings)] ページに移動し、[ポリシー (Policies)] を選択します。次に、新しいストレージの自動化ポリシーを編集または作成します。

2. **[無駄なファイルの最小サイズ (Minimum Wasted Files Size)]** の設定を編集します。

[ストレージ設定 (Storage Settings)] セクションで、**[無駄なファイルの最小サイズ (Minimum Wasted Files Size)]** の値を編集します。

API を介してポリシーを編集する場合、この設定はストレージ設定マネージャ

(`...api/v3/settings/specs?manager_uuid=storagesettingsmanager`) にあります。設定は次のように定義されます。

```

{
  "uuid": "minWastedFilesSize",
  "displayName": "Minimum Wasted Files Size [KB]",
  "defaultValue": "1000.0",
  "valueType": "NUMERIC",
  "valueObjectType": "String",
  "min": 0,
  "max": 1000000000,
  "entityType": "Storage"
}

```

■ 修正済みの問題：

修正バージョン：8.3.6

groupBy 設定なしで **POST stats/uuid** 呼び出しを実行すると、API がグループ化された統計を返すことがあります。

API への POST: `.../stats/{statistic_Uuid}` 呼び出しの場合、取得する統計の `groupBy` パラメータを指定できます。`groupBy` 値を指定しない場合、API はグループ化されていない統計レコードを返す必要がありますが、状況によっては、グループ化されたレコードが返されます。API は一貫している必要があります。

■ 修正済みの問題：

修正バージョン：8.3.3

businessunits エンドポイントで GET を実行すると、指定された範囲に **businessunit** エンティティがない場合でも、データを返すことができます。

businessunits エンドポイントで GET を実行すると、指定された範囲に **businessunit** エンティティがない場合でも、データを返すことができます。返されるデータは、1 つの要素を含む配列です。次に例を示します。

```
[{"master":false,"riSupported":false,"hasRelatedTarget":false}]
```

この状況に対する適切な応答は、空の配列である必要があります。

API 廃止契約

以下のエンドポイント、リクエスト、DTO、およびパラメータは、Workload Optimization Manager API で廃止されました。サポート終了 (EOL) により、これらの変更を確定する製品バージョンが提供され、廃止項目は提供されなくなります。

注：

EOL が定義されている廃止項目については、代替の使用方法が示されています。

EOL : 8.4.1

8.4.1 リリースでは、次の廃止に関する変更が行われます。廃止機能は、廃止時点で API から削除されます。

エンドポイント	なし
リクエスト	なし
要求パラメータ	<ul style="list-style-type: none"> ■ リクエスト：GET /search パラメータ名：regex 手順：queryType パラメータを使用します。
DTO	<ul style="list-style-type: none"> ■ DTO：ScenarioChangeApiDTO 手順：loadChanges または configChanges パラメータを ScenarioApiDTO で使用します。 ■ DTO：StatPercentileApiDTO 手順：StatHistUtilizationApiDTO を使用します。
DTO パラメータ	<ul style="list-style-type: none"> ■ DTO：ActionApiDTO パラメータ名：resizeToValue 手順：newValue パラメータを使用します。 ■ DTO：ActionScopesApiDTO パラメータ名：limitEntities 手順：limit パラメータを使用します。 ■ DTO：BillingFamilyApiDTO パラメータ名：uuidToNameMap 手順：businessUnitApiDTOList パラメータを使用します。

	<ul style="list-style-type: none"> ■ DTO : BusinessUnitApiDTO パラメータ名 : hasRelatedTarget 手順 : associatedTargetId パラメータを使用します。 ■ DTO : ScenarioApiDTO パラメータ : changes 手順 : loadChanges または configChanges パラメータを使用します。 ■ DTO : ScopeUidsApiInputDTO パラメータ名 : topologyContextId 手順 : marketId パラメータを使用します。 ■ DTO : StatApiDTO パラメータ名 : percentile 手順 : histUtilizations パラメータを使用します。 ■ DTO : TargetApiDTO パラメータ名 : currentBusinessAccount 手順 : BusinessUnitApiDTO の associatedTargetId パラメータを使用します。
--	--

EOL : 8.5.1

動作の変更 :

- 返されたデータのページネーション

次のリクエストに対しては、デフォルトのページネーションが変更されます。

- GET /groups
- GET /groups/<groupId>/members
- GET /groups/<groupId>/entities
- GET /targets/<targetId>/entities set
- GET /tags
- GET /tags/{tagKey}/entities

返されたデータをページネーションするには、limit、orderBy、および cursor パラメータで、API によるデータのページネーション方法を制御します。現在、リストされている API リクエストに対して limit を指定しない場合、API は無制限のデータセットを返します。

バージョン 8.5.1 以降、これらのリクエストに limit を指定しない場合、API はデータをデフォルトの制限にページネーションします。limit を設定せずにスクリプトでこれらのリクエストが行われる場合、スクリプトを更新して、返されたデータのページネーションカーソルを確認する必要があります。

8.5.1 リリースでは、次の廃止に関する変更が行われます。廃止機能は、廃止時点で API から削除されます。

エンドポイント	なし
リクエスト	<ul style="list-style-type: none"> ■ リクエスト : GET /users/onetimepassword 手順 : 代替機能なしで廃止。これは、Workload Optimization Manager のアクティビティには必要ありません。
要求パラメータ	なし

DTO	なし
DTO パラメータ	<ul style="list-style-type: none"> ■ DTO : ActionApiDTO パラメータ名 : <ul style="list-style-type: none"> - currentLocation - newLocation 手順: アクションレスポンスでは、これらのパラメータに次のデータが返されなくなりました。 <ul style="list-style-type: none"> - priceIndex - state - severity - unplacementDetails - costPrice - severityBreakdown - realtimeMarketReference - consumers - providers - template - numRelatedVMs - connectedEntities - aspects - tags - onDemandBeforeRate - onDemandAfterRate これらのデータが必要な場合は、ActionApiDTO.currentEntity および ActionApiDTO.newEntity で関連フィールドを見つけることができます。 ■ DTO : BusinessUnitPriceAdjustmentApiDTO パラメータ名 : serviceDiscounts 手順: servicePriceAdjustments パラメータを使用します。 ■ DTO : BusinessUnitApiDTO パラメータ名 : discount 手順: priceAdjustment パラメータを使用します。 ■ DTO : CloudServicePriceAdjustmentApiDTO パラメータ名 : discount 手順: priceAdjustment パラメータを使用します。 ■ DTO : CloudServicePricingModelApiDTO パラメータ名 : discount 手順: priceAdjustment パラメータを使用します。

	<ul style="list-style-type: none"> ■ DTO : TemplatePriceAdjustmentDTO パラメータ名 : discount 手順 : priceAdjustment パラメータを使用します。
--	--

EOL : 8.6.1

動作の変更 :

- /search リクエストから返されたデータのページネーション :

検索の場合、API は返されたデータをページネーションします。ページネーション制限を指定しない場合、API はデフォルトの制限に設定されたページを返します。(この動作は、バージョン 8.5.1 以降のすべての検索で標準となっていました)。バージョン 8.6.1 以降、検索データのデフォルトおよび最大ページネーション制限は 500 になります。ページネーションは 500 未満に設定できますが、検索結果に 500 を超えるエントリが含まれている場合、結果はページネーションされます。スクリプトは、検索結果を処理するときに常にページネーションカーソルをチェックする必要があります。

8.6.1 リリースでは、次の廃止に関する変更が行われます。廃止機能は、廃止時点で API から削除されます。

エンドポイント	なし
リクエスト	<ul style="list-style-type: none"> ■ なし
要求パラメータ	なし
DTO	<ul style="list-style-type: none"> ■ ReportScheduleApiDTO このリリースでは、ReportScheduleApiDTO が削除されます。
DTO パラメータ	<ul style="list-style-type: none"> ■ DTO : ActionApiDTO パラメータ名 : CurrentLocation 手順 : このパラメータのオブジェクトには、次のフィールドのみが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> - links - uuid - className - displayName - discoveredBy - environmentType - vendorIDs ■ DTO : ActionApiDTO パラメータ名 : NewLocation 手順 : このパラメータのオブジェクトには、次のフィールドのみが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> - links - uuid - className - displayName - discoveredBy - environmentType

	<ul style="list-style-type: none"> - vendorIDs ■ DTO : ProductVersionDTO パラメータ名 : buildUser 手順 : 代替機能なしで廃止。このパラメータは、8.x 製品ファミリーでは設定されていませんでした。 ■ DTO : GroupApiDTO パラメータ名 : remoteId 手順 : 代替機能なしで廃止。このパラメータは、8.x 製品ファミリーでは設定されていませんでした。 ■ DTO : UserApiDTO パラメータ名 : <ul style="list-style-type: none"> - roleUuid - roleName 手順 : 非推奨。UserApiDTO のロールパラメータを使用します。
--	---

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。

リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。